

徹底した学生目線で、卒業後に生かせる授業を設計する

2019年度春学期ティーチングアワード受賞

対象科目：企業データ分析

早稲田ビジネススクール（WBS）はMBA取得を目指す学生が学ぶ修士課程であり、高い専門能力を活用して広く国際社会に貢献できるビジネスリーダーの輩出を目指している。そのような環境で、就任初年度で見事総長賞に輝いた清水准教授が重視したのは、徹底した学生目線の授業設計だった。



清水 たくみ

経営管理研究科 准教授

全体的な流れをまず理解させたくて、 そのために必要な知識を学ばせる

経営管理研究科の選択必修として設置されているこの科目は、企業分析を行うための問いの設定から始まり、どういうデータを集めるのか、どんな分析を設計するか、そして実際にソフトウェアを使って統計的な分析を行うまでの流れを一貫して学ぶというものだ。

清水准教授は、ここで学ぶ内容を今後の21世紀型の力をつけるための基礎的なリテラシーだと捉えている。「WBSは将来の経営者および様々な分野でマネジメントとして活躍する人材を輩出することを目指していますが、そういった人材が必ず身につけるべき能力だと思っています。デジタル時代の今、データを扱う素養・データを元に意思決定する能力をぜひ見つけてほしいです」。

海外のビジネススクールでも、この分野にはとても力を入れているという。「元々この分野が得意な人だけではなく、多くの人にデータを使って何ができるかという可能性を感じてもらいたいです。今後の学内での学びや

卒業後のキャリアにはこういう世界があるんだということを知るきっかけになるといいなと思っています」。

同時に、先行研究を理解したり自分で論文を書いたりするときにも、データ分析は基礎となるスキルであり汎用性も高いことから、なるべく多くの学生にデータ分析に触れてほしいとも考えている。

授業で心がけているのは、教科書的なフローに則るのではなく、データ分析全体のプロセスをまず理解してもらうということだ。通常は、基礎的な数学の話などからひとつひとつ積み上げていくのがオーソドックスな進め方だが、それでは肝心のデータを使って何かを分析するということに行き着くまでに、脱落してしまうケースも多いと危惧する。「実際の分析のフローでは、まず何かしら知りたいこと・リサーチクエスチョンがあります。それを明確にすることが一番大事だという話をして、それを調べるためにはどんなデータが必要なのか、それはどこから取ってくればいいのか。そして、それを分析するという段階で初めて統計の話を持ち出します」。

統計の話をするさいにも、いきなり確率や分布などの話をする前に、いわゆるビジネスパーソンがよく扱うグラフや図表などにフォーカスしてから、最後に専門的なものを含めた数学的なことを解説するという形にしている。「統計や数学というのは、企業データ分析で学ぶ一部分に過ぎません。それをすることにどんな意味があるか、どうデータ分析に入っていけばいいのかというところを、わかりやすく伝えられるような設計にしたいと考えています」。

無料ソフトを使い、卒業後も そのまま使えるスキルを身に付けさせる

自分の手を動かして理解させるという意図から、授業では一方的な講義を長時間続けることはなく、講義全体の半分以上の割合におよぶ授業内演習を取り入れている。細かな条件を設定した分析課題のほか、学期末には好きなテーマで自らデータを集めて自由に分析するレポートも実施している。

そこで使う統計ソフトは、オープンソースで無料で使用できる「R」というソフトを採用している点もこだわりポイントだ。学内には在学期間中のみ無料で使える高額なソフトが数多くあるが、大学時代で完結してしまうスキルではなく、卒業後にもそのまま使える力を身に付けてほしいと考えるからだ。学ぶ側の学生を意識したこれらのさまざまな配慮が、学生の高い満足度につながったといえそうだ。

社会人学生を相手にしたビジネススクールは、今年度が初めての経験だった清水准教授。多様なバックグラウンドを持つ学生から、それぞれの会社や業界での経験にもとづくさまざまな角度からの意見を聞けるのは、とてもエキサイティングだったと振り返る。「今必要とされている実務家のニーズを知るきっかけにもなりました。今後も、実務に携わる人のニーズに刺さるような研究や教育をやっていきたいと考えています」。

すぐに使える情報と、将来も使えるスキルを 意識して提供する

学生の大半が実務経験者もしくは現在実務をしながら通っている学生であることを考慮し、学生が職場ですぐに使うことをイメージできるような事例を共有するなど、実践性を高めることを心がけている。「この会社ではこういう形でデータ分析をビジネスに活用しているとか、こう使うことで組織のマネージメントをうまくやっているというような話も紹介します。できるだけ最近の事例を伝えて、これを学ぶとどういう意味があるのかを理解しやすくしたいと思っています」。

モチベーションを与えるという意味で、「明日使える技法・ツール」を伝えるようにもしている。「彼らの目標として修士論文や日々の業務でのデータ活用があるので、それらを実施するために必要なデータをどのように収集することができるのかは重要です」。そこで、他大学のデータアーカイブへのアクセス方法を伝えたり、早稲田大学の図書館と協力して学内のデータベースを活用するためのワークショップを実施したりという情報提供を取り入れている。「早稲田には非常にすばらしいデータベースが用意されているのに、意外と知られていないのです。これをぜひ活用してもらいたいのので、彼らが興味をもちそうなデータへのアクセス方法をデモンストレーションしてもらったりしています」。

